

＝ 400号特別記念号＝

教育に期待すること



岡崎市長
柴田 紘一 氏

岡崎市を舞台にしたNHK連続テレビ小説「純情きらり」が、放送されています。八丁味噌屋の若女将「核子」の明るくひたむきに生きる姿に感動し、毎日楽しみにして見ているところですよ。

さて、八丁味噌は、何百年もの間製法を変えず、岡崎の名産となってきました。その特徴は、米や麦を一切使用せず、良質の大豆、水、塩を原料に、二冬二夏の長い期間、天然熟成させて、旨み成分を出させています。時代とともに、機械が導入されても、味噌造り職人の熟練した技と勘が、最終的には重要な要素です。巨大な木桶の中で職人が仕込み、石積みをし、その後約二年余、自然の摂理に従って醸造します。

石積みに関して、職人は「石にはそれぞれ顔がある」と言っています。石の表情を見て、一つ一つ置いていくので、総重量が約三トンになる重石であっても、過去の大地震で崩れたことは一度もないそうです。

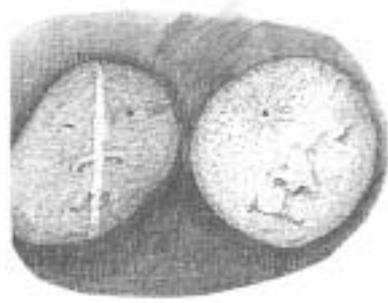
八丁味噌に代表されますように、

本当に価値ある優れたものは、時代や場所に、左右されません。このことは、教育にも当てはまることだと思います。

子供を取り巻く生活は豊かになり、学校の施設・設備・備品等は、私の子供時代に比べ、はるかに充実してきました。子供たちは、体育館で競技をし、プールで泳ぎ、インターネットを使い、世界中の人々と自由に交信しています。しかし、学校が恵まれた環境になっても、子供が心身ともに健やかに育つとは限りません。やはり、一人一人の子供たちとかわる教師の力が重要です。

二十一世紀は「心の時代」と言われています。「教育は人なり」の至言の如く、学校の教職員が中核となり、保護者・地域の人々と、信頼関係を深め、個々の子供を心豊かでたくましく育てていくことが必要です。

本市においても、子供の安全と健やかな成長を第一に考えています。自然との体験活動を通して、自他への思いやりの心を養う「森の駅」構



教育随想



平成18年9月1日

400号特別記念号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
岡崎市長 柴田 紘一氏	
この人に聞く	2
岡崎市教育委員会 教育長 藤井 孝弘氏	
岡崎の教育小史	2
— 301号からの軌跡—	
読者の声	3
座談会	4
月報「岡崎の教育」を語る	
編集こぼれ話	6
お知らせ	7
フォト・ヒストリー	8
学校体育研究発表会 (昭和63年)	
この本を	8

想、知的好奇心を培う新図書館の建設、次世代を見通した児童支援行動計画「おかざきっ子 育ちプラン」、安全面では扉扉のドアホンの設置や携帯電話を活用した防犯情報配信システム運用等を計画的に実施しているところでもあります。

本年、一月一日に額田町と合併した岡崎市は、市制九十周年という一つの節目を迎えました。これを機に、教職員並びに関係各位の皆様とともに、未来を担う岡崎の子供たちのために、一層努力してまいりたいと思います。

(しばた こういち)



月報「岡崎の教育」 四〇〇号に寄せて

岡崎市教育長

藤井 孝弘 氏

月報「岡崎の教育」四〇〇号を記念し、藤井孝弘教育長を訪ね、月報に対する思いと期待することについて、お話を伺った。

月報は、昭和四十八年六月に創刊し、今年で三十四年目、この九月号で四〇〇号を迎えました。

この間、委員長は十五代、編集委員は、のべ六三八人を数えます。さらに、本紙の内容に関連した人を加えますと、のべ三万人以上にもなり、改めて歴代の編集に携わった多くの

方々に深く感謝申し上げます。

月報は、これまで、「子供たちの本然の姿を考え合う精神的交流の場」として、また「岡崎の教育史」を記録していく場として、創刊以来その重要な役割を担ってきました。

これまで紙面の構成、内容については、時代と共に変遷していますが、不易と流行の調和を図り、読む人に深い感銘を与えていると思います。

その中でも「教育随想」と「特集」は、創刊号より綿々と継続されています。前者では、木村資生氏（六〇号）、奥田碩氏（三七一号）等の方々が執筆されており、幅広い見識で語っていただいています。また、後者では、自然や文化、教育の歩みなど、岡崎の「人・こと・もの」などについて、きめ細かな取材と、綿密な編集によって作成されています。現在、月報は、毎月二五〇〇部が印刷されています。市内の小中学



校・幼稚園の全教職員、海外日本人学校や市外・県外へ派遣されている教員、市及び県内の関係諸機関に配付しています。そして、その多くの方々から高い評価と感謝のお手紙などをいただいております。

今日、教育は大きな改革の渦中にあります。その中で今後、月報に期待する三つのことがあります。

第一に、常に教育の原点を見据え、時代の流れと共に埋もれてしまいがちな「人・こと・もの」に光を当てていく必要があります。そのためには、創刊号からの精神を引き継ぎ、魅力ある自己研鑽のための情報源としての内容を期待します。

第二に、価値の高い内容と、親しまれる企画・編集が必要です。そのためには、時代の変化を敏感に感じ取り、岡崎の教育の将来を展望し、時代に先駆けた斬新な内容や新分野を開拓していくことが大切です。

第三に、月報は、岡崎市の教育の歴史を後世に伝える存在であります。そのためには、どのような内容を掲載するかを十分に審議し、教育に関するあらゆる分野での正確な記載を期待します。

最後に、月報「岡崎の教育」が、洗練された最高の文章と資料を通して、岡崎の教育の活性化を一層推進していくことを願ってやみません。



—三〇一号からの軌跡—

▼平成十年度

- ・MICSに教育チャンネル開設
- ・行事・部活動研究委員会設置
- ・学校での焼却炉使用全面禁止
- ・総合的な学習の時間への対応
- ・心の教室を中学校に開設
- ・第一回文化のつどい開催

▼平成十一年度

- ・チャレンジサマーキャンプ開始
- ・小学校インターネット接続
- ・中学校十五校高速インターネット接続
- ・情報公開条例を議会へ提案
- ・通知票観点項目全面改訂
- ・メンタルサポートクラブ事業開始

▼平成十二年度

- ・学校週五日制研究委員会設置
- ・スクールカウンセラー配置
- ・情報公開条例に基づく公文書開示開始
- ・岡崎市教育ネットワーク開始
- ・教育長に藤井孝弘氏就任（十一月）

▼平成十三年度

- ・小中学校・幼稚園へ主事訪問開始
- ・教育研究所に不登校相談室を開設

読者の声

岡崎の教育の発展を祈念して

国立教育政策研究所

学力調査官 高須 亮平

この四月より東京へ赴任し、新涼の季節を迎えました。この間、月報「岡崎の教育」は、私にとって岡崎の教育との架け橋となっています。

現在、文部科学省は、学校評価の充実を進めています。よくいう「P D C A」サイクルです。岡崎市においては、全国的に見ても先進的な取組をしています。月報を読んでいて、各学校に徐々に浸透していくことが、手に取るようにわかります。

この評価システムの確立は、目の前の子供をよりよくするためのものです。来春、実施予定の「全国学力・学習状況調査」もその一環と考えられます。この調査が、子供の学習や授業の改善に生き、岡崎の教育がより発展することを祈念しています。



▲ 文部科学省玄関さざれ石前にて



▲ 総合的な学習の時間で行う英語劇の台本読み

故郷は遠きにありて思うもの

シドニー日本人学校

伊奈 良晃

月報「岡崎の教育」在中と書かれた封筒を初めて手にした一年前、私はまだ海外での生活に馴染むことができずにいました。英語環境、一人暮らし、赴任先であるシドニー日本人学校での生活。それらに対して見通しが持てない時期でした。一枚の封筒がそんな自分をどれ程勇気づけてくれたことでしょうか。特に現籍校である甲山中の諸先生方、そして生徒の皆さんの活躍が掲載されている記事は、自分自身を叱咤激励する絶好の機会になりました。

今もなお月報「岡崎の教育」は自分を奮い立たせる材料であり、自分の帰るべき地を思い出させてくれるものであります。

「故郷は遠きにありて思うもの」今後も岡崎の教育の更なる発展をこの地から祈っております。

初めて「岡崎の教育」を手にして

夏山小学校 井上 清美

岡崎と額田の教育はどこがどう違うのでしょうか。果たして額田でやっている教育を、そのまま継続していても、岡崎で通用するのでしょうか。合併を不安に思う日が続ききました。

そんな気持ちで迎えた一月の合併、初めて月報を手に入りました。岡崎の教育方針が簡潔にわかりやすくまとめられていました。混沌とした不安が少しずつ薄れていくのを感じました。「教育最新情報」の欄には、「へき地教育」などの解説と額田の学習の写真が掲載されていました。編集委員の方々の、額田を思う温かい配慮を強く感じました。

私の心の中にあつた岡崎と額田の壁を一番初めに取り除いてくれたのは、月報「岡崎の教育」です。



▲ 地域の方と一緒に野菜の栽培

- ・ 臨床心理士2名配置
 - ・ 芸術鑑賞会開催
 - ・ 朝の読書導入
 - ・ 小中学校に学校経営評価を開始
 - ・ 学校自由参観週間を実施
 - ・ SSV制度を導入
 - ・ 学校・園の危機管理マニュアル策定
 - ・ OC委員会を全中学校区にも設置
 - ・ 学校評議員制度確立
 - ・ 「岡崎市の二十一世紀教育ビジョン」作成
 - ・ 幼・保・小の連携の試み開始
 - ・ 中学校区児童生徒健全育成協議会開始
 - ・ 小学校パソコン教室一人一台体制整備開始
- ▼平成十四年度
- ・ 教員滞在研修・教員派遣研修・教員海外研修を創設
 - ・ 教員補助者活用事業開始
 - ・ 少人数指導授業導入
 - ・ 特色ある学校づくり推進事業開始
 - ・ 「本校の教育」作成・配付依頼
 - ・ 「わくわくカード」・生徒手帳による公共施設入場無料化
 - ・ 基礎学力教材作成
 - ・ 防犯マップ作成
 - ・ タウランガ市中学生使節団派遣
 - ・ OKリンクを設置
 - ・ 校内LANの導入開始
- ▼平成十五年度
- ・ 岡崎市が中核市に移行
 - ・ 各種研修を市で実施
 - ・ 教育文化館開設
 - ・ 理科・技家作品展一日開催

座談会

月報「岡崎の教育」を語る



平成十年五月に三〇〇号記念号が発行されたが、それ以降編集委員長を務められた、柴田先生、鶴田先生、金子先生をお招きして、月報について、大いに語っていただいた。

(司会) 暑い日が続いています。今日は記念号のためにお集まりいただきましてありがとうございます。月報をさらに充実させるため、存分に語ってください。

○当時編集をしていて大事にしていたことは何ですか。

(柴田) 創刊号に書かれている「岡崎市一千の教職員の精神的交流の広場」という巻頭言を大切にしています。岡崎の教育を象徴する月報として、内容・編集ともにふさわしいものを目指そうというプライドみたいなものを皆が持っていました。

岡崎市教育委員会という公の機関が発行する新聞を作るのだということで、自分の思いや考えを伝える学級通信とは違うのだと教えられました。その時代の教育の流れ、岡

崎の教育の姿を記録として残す。その時は、何ということもない数字でも、後にとっても大切になってきます。(鶴田) そうですね。地道な作業でしたが、誇りを持っていましたね。何より、岡崎の教員が次の号を待ち望むような紙面にしたいと思っていました。

十三年度から教育随想を一面にもってききました。巻頭言として重みが出るのではないかとこの考えから思い切って変えました。同時に、岡崎の教育の最新情報を掲載していくことも加えました。とにかくすべての教職員の資質向上を狙っていかうという思いでしたね。

(金子) 月報が現在の形になったのは鶴田先生が委員長の時代でしたね。私たちも編集委員としての気概をいつも持つて臨んでいました。依頼して回収した原稿も、編集者としての理念をしっかりと持って検討しました。編集者の情熱のほとばしりが、必ずや読者の心を揺さぶるということを目指して、編集に携わってもらいました。

例えば、「ふれあい」は若い先生の子供たちにかける情熱を力強く文章に落とすしていく。編集者が納得のいくまで、執筆者と文章を練り上げることをしました。

- ・生徒市議会質問回答の部長答弁
- ・子どもと親の集い運動会をブロック単位の交流会に変更
- ・社会体験型教員研修事業を開始
- ・教育活動診断票を活用した外部評価実施
- ・児童虐待防止のための支援体制構築
- ・二期制の導入についての検討
- ・防犯ホイッスルを小学校一・二年に配付
- ・特色ある学校づくり推進事業開始
- ・五校に委嘱
- ・SSN事業の導入
- ・「二十一世紀教育ビジョン推進計画」作成
- ▼平成十六年度
- ・「二十一世紀を担う子供たちの育成を目指して」作成
- ・目標管理サイクルP↓D↓C↓A導入
- ・防犯ホイッスル全小学生に配付
- ・ウツデバラ市の姉妹都市交流を再開
- ・「評価規準例集」完成・各校配付
- ・A L Tを五名から七名に増員
- ・中学校区児童生徒健全育成連絡協議会発足
- ・「基礎学力向上教材(改訂版)」作成・配付
- ・幼・保・小の市全体の研修会実施
- ・特別支援教育コーディネーターを小中学校に配置
- ・教職員による内部評価導入
- ・「小学校英語活動指導案集」を全小学校に配付

司会 早川 正春 編集委員長 (右)
 平成九・十年編集委員長
 元矢作北中学校長 柴田 隆夫 氏
 平成十一・十三年度編集委員長(中)
 元六ツ美中部小学校長 鶴田紀美子 氏
 平成十四年度編集委員長 (左)
 前小豆坂小学校長 金子 一元 氏

○取材・編集・校正・発刊にまつわるこぼれ話を教えてください。

(柴田) 通算十二年という長い間、月報の編集にかかわらせてもらいましたが、その間に数え切れないほどの貴重な体験をしました。特に、「この人に聞く」などの取材では、素晴らしい人たちとの出会いがありました。平成五年六月号の三橋さんとは、家族ぐるみ交流が今も続いています。

また、「ふるさとシリーズ」など、月報で長年にわたって連載してきたものをまとめて出版することになったのです。取材のために、朝は、村積山、午後は桑谷山へという時もあった、まさに超ハードスケジュールの毎日でした。

(鶴田) そうですね。夜や土・日に取材に出かけ、まるでプロの記者のような動きをしていました。しかし、私たちが編集に携わっていたころより、プライバシーのこともあり、写真撮影や掲載が難しくなってきましたね。



(金子) そういえば、私も、著名人の顔写真を使用するとき、肖像権とやらが発生し、多額の肖像権料の支払いを要求されてその対策に大慌てをしたということがあります。

とにかく編集は労を惜しまずする作業です。せっかく任を得たので、から、編集委員自身が文章修業のもりで文章を検討しました。表現はこれでよいか、目の付け所はよいかと徹底的にやり合いましたね。

○これからの月報についてご意見を聞かせください。

(金子) 月報が創刊された昭和四十八年が、岡崎の教育の原点となっています。指導員制度や冬季研修の原型もこの年に整いました。以来、教育委員会・学校・校長会・現職研修委員会等が月報を通して有機的に機能しています。

ぜひ、骨身を削って頑張っている教師を発掘し、そのありのままの姿が伝わる記事がほしいと思います。

月報を読み、奮起する教師がいてこそ、役割が果たせたと思っています。(柴田) そういう意味では、「ふれあい」の執筆者も編集委員が責任を持つて選ぶことも大切でしょう。これからも、手元に置いておきたいかなるような月報を目指し、知恵を絞る

合って努力してください。

今、OKネット
で創刊号以来の月報を見ることができ
るのはとても
嬉しいことで
す。できれば
市政だよりのように、発刊と同時に見
られるようになると思います。



(鶴田) 今日、教育界は、刻々と変化していますが、不易と流行を見据えて情報を提供していただきたいと思っています。

例えば、特集は、もっと多面的な視点で、岡崎を再発見できるものがあってもいいと思います。

また、岡崎と近隣の市町を比較した情報のコーナーがあってもいいのではないのでしょうか。

(金子) 岡崎の教師は、岡崎の郷土や教育を語れるようであってほしいと思います。教師一人一人が岡崎の教育の熱き発信者となってほしいと思います。月報はそのためのより所であり続けてください。

(司会) 天気の良いだけでなく、気持ちも熱くなりました。月報が担う大きな役割を再認識しました。ありがとうございました。

・全小学校パソコン教室の一人一台体制完了

▼平成十七年度

- ・「二十一世紀を担う子供たちの育成を目指して」改訂
- ・目標管理サイクルR→P→D→C ↓A導入

- ・岡崎市特定事業主行動計画策定
- ・「岡崎スタンダード」作成開始
- ・防犯ブザー全中学生に配付
- ・小中学校の出入り口に門扉とインターホンを設置

- ・特別支援教育連携協議会発足
- ・教育マイスター制度開設
- ・幼・保・小連絡協議会(準備会)発足
- ・チヨキちゃんこども一〇番の家開設

- ・「教員評価システム」パンフレット作成・配付
- ・愛知万博に全小中学校参加
- ・岡崎市と額田町合併(小学校五十校・中学校十九校)

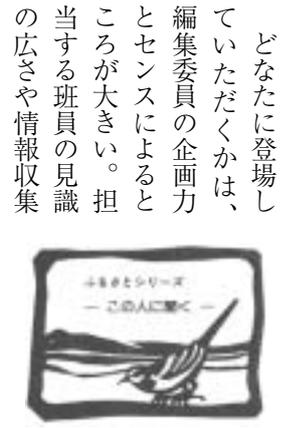
- ・教育委員会の組織再編成
- ▼平成十八年度(八月末まで)
- ・岡崎市制九十周年
- ・仮称「岡崎市図書館交流プラザ」建設着工

- ・教員評価制度導入(各校五名程度)
- ・授業力・教師力アップセミナー、組織マネージメント研修開催
- ・クアラルンプール市と交流事業開始(三年間の期間限定)

- ・幼・保・小連絡協議会発足
- ・A・L・Tを七名から九名に増員
- ・スクールカウンセラー全中学校に配置

問われる企画力と行動力

—この人に聞く—

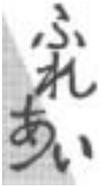


S58.4.1 No.119より

どなたに登場していただくかは、編集委員の企画力とセンスによるところが大きい。担当する班員の見識の広さや情報収集能力や人脈の豊かさが問われる。掲載のタイミングや季節との関係も考慮する。さらに、一時間以上にわたるインタビューから、その人の人生観、教育観につながる言葉のエキスを見逃さずに、限られた紙幅に落とし込んでいく作業には編集委員としての能力が露呈する厳しさもある。プロスポーツ選手への企画ともなると、取材自体が困難を極める。メールのやり取りに限界を感じ、横浜の球団事務所まで日帰りの取材を強行した委員もいた。また、世界的なピアニストがさりげなく登場することもある。それを物にするのは運ばかりではなく、担当班の熱意と行動力による。

熱い魂の交流 —ふれあい—

教師と子供の心温まる交流や心に残る教育実践などを寄稿していただいている。実践に



H4.4.1 No227より

おける熱い思いや苦勞して成し遂げた感動などに、最初に触れることができる喜びを感じながら編集作業をしている。文章にしてしまえば五〇〇字程度であるが、背景にある日常の実践を思うと、本当に頭の下がる思いである。より多くの先生方に読んでいただき、この深い感動を共有していただきたい。執筆していただいた内容がかって自分も経験したものであったり、同じ学校で共に体験したものであったりすると、文章に入り込んでしまいがちになってしまふこともある。多くの目で見て、様々な角度から検討する月報編集委員会の重要性を感じる時々でもある。

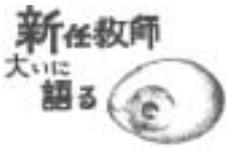
旬を探り伝える

—特集—

見開き二ページの特集は、テーマとともに紙面の大部分を占める写真も重要である。ピンボケはもちろん、頭が切れていたり、ピースをしていたりするのも御法度である。編集会議でもっとよい写真があるとの指摘を受け、その足で借りに走ったこともある。写真の差し替えならまだしも、原稿の全面書き直しということもあつた。苦勞が多い特集だが、取材で得るものも多い。自然科学研究機構を

編集こぼれ話

取り上げたときには、普段見られない最新鋭の装置や、世界最先端の遺伝子研究の様子を見せていただき、大変感動した。また、合併に合わせて旧額田町の小中学校を特集した際には、九校すべてを訪ね、新たに仲間入りする学校の様子をいち早く知ることができた。



S48.6.2 創刊号の特集より

セピア色の写真の解釈 —フォトヒストリー—

編集班に届くセピア色の写真。そこから、当時の教育の営みが読み取れる。フォトヒストリーは、平成九年から始まった。

三〇一号から四〇〇号に至る間で最も古い写真は、梅園幼稚園から提供された明治四十四年の開園風景である。女教師は日本髪、子供たちも着物姿である。驚くのは、皆、姿勢がよく、誰一人身勝手な動きをしていない者がいないこと。時代を遡るほどにその傾向が強い。編集会議では、ここの検討は楽しみである。止まった時の事実か



H9.4.1 No.287より

ら、今につながる何かを見出そうとするからである。

資料にあたっていているうちに、原稿を修正しようということになる。部分修正では効かずに、全面改訂となれば、学校に連絡を取ると「もう、すべて、編集委員さんにお任せします」となってしまうこともある。謝

オカざきの アの ㊦あわせの
いしん力 オ・ア・シ・ス



S52.4.1 No.47より

お仕舞いの頁で確認する位置を占める「オアシス」。ほっと一息入れるコラムである。始まったのは昭和五十二年、すでに三十年続いている。

㊦明日こそ脱稿。その思いで、分担が決まった日から文頭の「オアシス」の単語探しが始まる。子供、季節、教育時事、特集の取材から。教室の子供たちや隣家の庭の見事な大輪の菊を眺めながら内容を練る。

㊦執筆まで一気にいけばよいが、落ちがなかなか手強い。短文とはいえず、編集後記の意味もある。甘言、苦言、心に残る一言で読者をうならせたい。担当者のセンスの見せ所でもある。

㊦清々しい気分一杯の珈琲をいただく。手には刷り上がった月報。同僚の反応が気にかかる。手元に残しておきたい月報でありますように。

●表 彰

- 第二十八回県中学生相撲大会 優勝 新香山中三年 吉田 圭祐
- 第二十七回東海ブロック大会 カヌー少年少女カヤックシングル 準優勝 新香山中三年 田中 麻友
- ※第六十一回兵庫国体出場権獲得
- 第二十六回サントリーカップ全日本小学生バレーボール県大会 男子の部優勝 六南小クラブ
- 第四十回「お母さんの詩」(ハナマルキ味噌主催) 特選 美合小三年 伊澤 大輝
- 全国教員柔道大会(団体戦出場) 竜南中 教諭 山口 貴之
- 全国教員ソフトボール大会 県大会優勝 東海大会優勝 全国大会出場(九年連続) 岡崎教員チーム
- 第十三回わんぱく相撲ブロック大会 準優勝 竜美丘小六年 飯山 真二
- ※全国大会の出場権獲得
- 県小学生リレー競争大会 優勝 混合四年 岡崎JAC
- 辻村(緑丘小) 鳥居(六ツ美中部)
- 河野(六ツ美西部)
- 第三十六回県ジュニア新体操選手権大会 優勝 勝(個人ロープ)
- 第三位(個人総合)
- 矢作北中三年 太田 妃咲
- 育てープリントコミュニケーションコンクール 優秀賞 矢作西小学校通信「江西」

●中学生海外都市交流事業

交流事業として、ニューポートビーチ市(第二十五回)からは、中学生七名、付き添い二名が、呼和浩特市(第十八回)からは、中学生三名、付き添い三名が、岡崎市を訪問し、友好を深めた。



▲呼和浩特市使節団による市長表敬訪問(8/3~8/7)



▲ニューポートビーチ市使節団による川嶋助役表敬訪問(7/11~7/18)

●平成18年度岡崎市小学校体育大会の記録

種目	性	優勝	第2位	第3位
ソフトボール	男子	六ツ美 藤部	根石 上	地門 梅園
	女子	広幡 矢作南	上地 大	美部 藤川
バレーボール	男子	矢作南	上地	福岡 常磐
	女子	上地	細川	福岡 常磐
バスケットボール	男子	大樹寺	川美 名本	六ツ美 北郷
	女子	大樹寺	川美 名本	六ツ美 北郷
サッカー	男子	井田	上地	竜美 丘岡
	女子	矢作東	矢作北	広幡 上
水泳	北ブロック	矢作東	矢作北	広幡 上
	南ブロック	三島	緑丘	六ツ美 中部

●第59回岡崎市中学校市長杯総合体育大会の記録

種目	性	優勝	第2位	第3位
陸上競技	男子	六ツ美 南	六ツ美 北	六ツ美 北
	女子	竜南	六ツ美 北	六ツ美 北
バスケットボール	男子	矢作北	六ツ美 北	北 甲山
	女子	竜海	六ツ美 北	北 東海
バレーボール	男子	竜南	東海	矢作北 竜海
	女子	矢作北	新香山	福岡 矢作
ソフトテニス	男子	河合	美川	城北 福岡
	女子	矢作北	常磐	城北 竜海
卓球	男子	幸田	南	幸田 北部 美川
	女子	額田	北	幸田 北部 六ツ美 北
体操	男子	矢作北	東海	竜海
	女子	矢作北	東海	竜海
剣道	男子	矢作北	幸田	北 幸田 北部
	女子	南	幸田 南部	額田 竜海
ハンドボール	男子	美川	葵	竜南
	女子	美川	六ツ美 北	竜南
軟式野球	男子	額田	矢作北	葵 美川
	女子	幸田	城北	葵 矢作
柔道	男子	幸田	南	矢作北 北 甲山
	女子	六ツ美 北	矢作北	竜南
サッカー	男子	竜南	甲山	竜海 南
	女子	矢作北	葵	岩津
水泳	男子	矢作北	葵	竜海
	女子	矢作北	葵	竜海
弓道	男子	幸田A	額田A	幸田 南部A
	女子	額田A	額田B	幸田B

●第44回岡崎市小学校水泳大会

【南ブロック】三島小プール

種目	男子	女子	男子	女子
5年50m自	本多 奏一朗	本山 宿	33'0"	平岩 桃夏
6年50m自	池田 直也	中山 中	32'9"	大河内 瑞徳
6年100m自	菅原 勇希	三島	1'11"4	村松 穂乃香
6年100m平	四ツ谷 昂亮	六ツ美 中部	1'30"5	川波 恭子
5年50m背	河合 駿介	緑丘	39'7"	遠山 喜咲
6年50m背	横山 朋亮	上地	40'0"	槽谷 詩織
6年25mバタ	斉藤 由亮	六ツ美 西部	16'8"	平岩 果萌
5年50m平	磯谷 健介	本宿	50'4"	石原 薫子
6年50m平	赤松 斗志	三島	44'4"	岡田 佳澄
200mメドレーR	河合、深津、山本、神谷、吉田	緑丘	2'39"5	槽谷、戸田、遠山、戸田、川波、槽谷
200mR	河合、吉田	緑丘	2'19"4	遠山、戸田、川波、槽谷

【北ブロック】井田小プール

種目	男子	女子	男子	女子
5年50m自	佐々木 龍太郎	大樹寺	31'7"	龍見 美咲
6年50m自	細井 竜輝	大樹寺	32'9"	高杉 美和
6年100m自	川口 真史	岩津	1'07"2	高井 有鹿
6年100m平	黒柳 稜	岩幡	1'21"4	谷 業澄
5年50m背	野村 稜	岩津	41'8"	荒井 裕巳
6年50m背	石井 大貴	矢作北	36'1"	佐々木 麻衣
6年25mバタ	藤原 俊典	矢作西	15'8"	高山 千絵
5年50m平	岩本 力也	矢作北	42'3"	柴田 葉月
6年50m平	落合 郁文	細川	38'8"	小林 由佳
200mメドレーR	石井、山田、岩本、倉田	矢作北	2'28"4	佐々木、土田、高井、腰山、高井、佐々木、腰山、名越
200mR	城所、小坂、加藤、細井	矢作東	2'14"3	高井、腰山、名越

●第59回岡崎市中学校市長杯総合体育大会総合成績

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
男子総合	矢作北	矢作	竜海	六ツ美 北	南	甲山
女子総合	矢作北	竜海	竜南	北	南	矢作
男女総合	矢作北	竜海	矢作	南	竜南	甲山

●第59回岡崎市中学校市長杯総合体育大会個人成績

種目	男子	氏名	校名	女子	氏名	校名
弓道	個人総合	長谷部 翔	幸田 南部	個人総合	清水 貴仁	額田
ソフトテニス	個人戦優勝	太田・長谷	河合	個人戦優勝	岩瀬・鈴木	城北
卓球	個人戦優勝	児島 圭佑	幸田	個人戦優勝	平岩 桃子	額田
剣道	個人戦優勝	小山 田涼之介	葵	個人戦優勝	澤口 悠季	矢作北

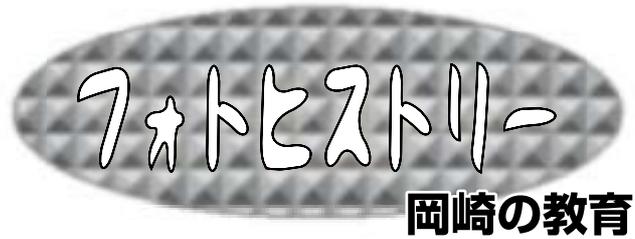
※記録欄の「新」は、新記録の意味

・カ
ツ
ト
福
岡
小
南
野
薫

学校体育研究発表会

(昭和63年)

写真提供：小豆坂小学校



昭和六十三年十一月十八日、全国体育連合会・愛知県教育委員会・岡崎市教育委員会指定の学校体育研究発表会「健やかで活力あふれる子どもの育成をめざして」が開催された。意欲を高め、自ら進んで取り組むことを目指し、一人一人が課題を見つけ、能力別に取り組んだり、子供同士が教え合ったりするなど、工夫された授業が行われた。小豆坂小の取組に対する評価は極めて高く、その後の岡崎の体育教育に貢献した研究会の一つとなっている。



- *きょう一日を、生き抜いて 松原 泰道
プレジデント社 ¥1400
- *イチローの流儀 小西 慶三
新潮社 ¥1400
- *こうすれば心が育つ 金井 肇
小学館 ¥1500
- *野村ノート 野村 克也
小学館 ¥1500

*何のために生きるのか

五木 寛之、稲盛 和夫
致知出版社 ¥1429
今を生きる意味を問う、作家の五木氏と京セラ創業者の稲盛氏との対談集である。本書で両氏は、人生で大事なことは、心を高めること、たましいをより美しいものにするのと語っている。
今回の対談を通して両氏が帰着した現代の課題は、情操をいかに育むかということである。心豊かに生きようとする私たちにヒントを与えてくれる。

恐れをなす災害は、忘れたころにやってくる。台風や豪雨などで、今夏も多くの人々が大きな被害を蒙った。また、東海地震の発生も声高に言われている。自然の脅威は人間の命や生活を一瞬に奪ってしまう。防災の日を迎え、改めて、もしもの時の備えを万全にしたい。

シ オ ス ア

新米が待ち遠しい季節となった。八十八の手間ひまがかかると言われるお米。いくら機械化が進んだとはいえ、美味しいお米を作るための手間ひまは今も昔も変わらない。晴天の秋空の下、黄金色に輝く田んぼを見ると実りの秋を実感する。学校現場にとっても収穫が多い二学期がスタートした。

あこがれの舞台で、様々なドラマが展開された。必死にボールを追いかける姿、力の限り応援する姿は、多くの感動を呼び起こす。そして、子供たちはこの経験を通して、大きく成長する。
さわやかな秋風が吹くころには、新チームの初々しいブレイがたくさん見られることだろう。

スタートは昭和四十八年。巨人軍V9の年である。今回の特集のために創刊号から読み返してみた。三十三年余という大きな時の移り変わりに驚かされることも多いが、教師の子供への思いはいつの時代も変わらなかった。岡崎の教育の確かさを綴り伝えていく責任を改めて感じた。